

## 巻頭言

### 21世紀最初の年 2001年 が過ぎて

航空会副会長 日根野 穰（昭和32/3. 航空学専修）

早いもので21世紀ももう二年目に入りました。ここで2001年が我々航空会員にとってどのような年であったかを振り返って見たいと思います。

まず我が国の自衛隊の航空機では3月に三沢基地で新支援戦闘機F-2による飛行隊が編制されました。F-2は日米間の熾烈な折衝の末にF-16をベースにした共同開発になり関係者の並々ならぬ努力で運用開始になったもので、一日も早い戦力化と共に発展型としての長い活躍を期待しております。

11月にはP-X/C-X（次期固定翼哨戒機/次期輸送機）の技術開発を担当する企業が決定されました。久し振りの大型機の開発で非常に期待されますが構成部分の共通化という難問も有りますので大いに智慧を絞って玉成して頂きたいと思っています。

目を外国向けると10月に米国防省がJoint Strike Fighterの担当メーカーとしてロッキードを選定しました。ボーイングとの飛行試験による競争で決定したもので計画では米空海軍、海兵隊、英海軍向けに3000機以上が生産される大プログラムです。いずれ我が国のF-4、F-15の代替の候補として係わって来ると思われます。

ミサイルについての大きな出来事としては年末に米国が一方向的にロシアに行った1972年のABM条約の破棄通告が目撃されます。今後のロシア、中国との交渉は有るでしょうがミサイル防衛の開発、配備が本格化することでしょう。

民間航空機の分野は殆どが国際的な枠組みの中で推進されているので日本独自の活動は少ないのですが注目すべきイベントとして11月に小型超音速(ロケット)実験機が航空宇宙技術研究所に引き渡されました。これは将来の超音速旅客機の開発に必要なCFDのような革新的な技術を修得する為のもので5月に豪州のウーメラ実験場で飛行試験が開始されます。これらの技術は後述するSonic Cruiserにも有用と期待されています。

一方、世界では2000年暮れにローンチされたエアバスの超大型機A380と3月に開発着手が発表されたボー



イングのSonic Cruiserの対戦になって来ました。ボーイングが目指す高速、長距離旅客機がA380に匹敵する経済性で出来るか面白い勝負ですが、日本の業界としても慎重な検討を行った上対応して行くことが必要です。

宇宙の世界では8月のH-IIA初号機の打ち上げ成功です。失敗が許されない状況の中での関係者の大変な努力により予定したミッションを全て計画通り実行できました。引き続き今年予定されている2、3号機の打ち上げを成功させ日本の宇宙技術に対する信頼を回復し念願の商業打ち上げ市場に参入しなければなりません。

もう一つ注目すべき事は8月に示された宇宙三機関統合の方針です。統合準備会議で今年度中を目標に検討が行われますが我が国の航空宇宙の開発技術力向上に有効な体制の確立が望まれます。

昨年の出来事でどうしても触れなければならないのは9月11日の米同時多発テロです。大変理不尽かつ痛ましい事件で政治的、経済的に大きな影響が出ており特にエアライン業界、航空機メーカーに深刻な打撃を与えています。一日も早く回復を図ることが必要で11月に発表されたJALとJASの経営統合もその一つの現われでしょう。またテロを防止することも必要です。非

常に難しく広範な対策が必要ですが我々の周りでも監督官庁、エアライン、メーカーそれぞれ出来る事が有りそうです。

また、その後米国を中心にテロ勢力を壊滅する軍事行動が行われ自衛隊もインド洋で支援活動を行っています。この活動から得られる貴重な経験を今後に生かしていかなばなりません。

この他にもいろいろな事有り2001年は21世紀の幕開けにふさわしい激動の年でした。これから問題を解決しプロジェクトを推進、玉成し体制を整え航空宇宙分野の発展に務めていかなばなりません。航空会の皆様のご活躍、ご奮闘を切に望みます。

## 報告

### 特別講演会報告

鈴木真二（昭和52/3. 航空工学専修）

本年度の航空会「特別講演」は近藤次郎会長（昭和20/9. 機体専修）により、「メッサーシュミットの生涯」と題して須郷道也氏（昭和28/3. 応物・数理）の司会で行われた。須郷氏は近藤先生の初期の卒業生とのことである。

話は、会長が学生時代に図面を描くのに苦労された思い出から始まった。製図や設計は絵画の素養と関係が深く、事実メッサーシュミットには画家の叔父がいたそうである。近藤会長がメッサーシュミットを話題に選んだのは、彼の伝記を最近入手されたのが直接のきっかけであったが、卒業設計にBf109を参考としてその図面を良く眺めていたため特に思い出が深いためであったということだ。直線的なBf109は図面にするのに簡単そうだというのが卒業設計に選んだ理由らしい。卒業設計は大学の大事なカリキュラムとして今でも引き続きおこなっているが、学生気質は今も昔も変わりが無さそうである。メッサーシュミットの生い立ちの後、彼の最高傑作であるBf109と我が国のゼロ戦が比較され、バトル・オブ・ブリテンでのBf109の活躍が紹介された。その後、ベルリンから東京まで飛行できる計画のMe264長距離飛行機とわが国の長距離機A-26が紹介された。日本との関係ではジェット機Me163とロケット機Me163が橘花、秋水として伝わったこと、それに関与した大谷修陸軍中將のことが紹介された。

戦後のメッサーシュミットの活躍は特に興味深いものであった。廃墟となったドイツの国民の生活を立て直すために彼は、プレハブ住宅やミシン、小型自動車を生産した。一時期スペインでの航空機開発に関わり54歳で結婚したりリー婦人とスペインに暮らし、その後、メッサーシュミットの復興したドイツに戻ったという。メッサーシュミットの功績は敗戦で消え去った



近藤次郎先生「メッサーシュミットの生涯」

が、彼は常に飛行機の進歩とともに歩んだ。

「航空の卒業生の諸君よりも、現役の学生諸君に飛行機設計の夢をもう一度蘇らせ、この工学を専攻する喜びを味あわせることができればこの上ない幸せである」と近藤会長は講演を結ばれた。講演後、メッサーシュミットの伝記が学科に寄贈された。

活発な質疑応答の後、部屋を代えて航空会総会・懇談会が行われた。

### 航空宇宙工学専攻および学科の近況

専攻長 / 学科長

鈴木真二（昭和52/3. 航空工学専修）

21世紀が到来し、国内では小泉内閣による構造改革と企業のリストラ、海外では米国同時多発テロなど世界は大きく動いています。大学も例外ではなく大きな波が押し寄せてきています。蓮見元総長はそれは「改革」ではなく、「変化」であると定義しましたが、大きく変わることに違いはありません。もっとも、表面的には嵐の前の静けさのようであり、当専攻および学科は平穏にこの一年を推移しています。

駒場からの進学振り分けは例年のごとく学生の人気が高く、また学生の士気も高く、教壇の教師陣も真摯に講義にとりこんでいます。1月の今は4年生の卒論が終了し、卒業設計が始まっています。卒論は驚くほどレベルの高いものもあり、優劣付け難い出来栄でした。日本航空宇宙学会が今年から学生賞を設け、航空宇宙関係の各学科に最優秀学生一人を推薦するような依頼がありましたが、とても一人に絞り込むことができない状況でやむなく辞退した経緯もあります。

大学院は重点化によって学部とほぼ同じ定員になり、

院への進学者が増えるにともない、面積の少なさに困窮するに至っています。もともと当学科は他に比べ面積配分が少なく、今後とも面積拡張を要求していきます。学生・教職員の活躍は今年も目覚ましいものがあり、金色一賢君、桑田良昭君、鶴川晋一君（以上修士1年）、石川早苗さん（学部4年）のグループは中須賀真一助教授ほかの指導のもと第9回衛星設計コンテストアイデア大賞を受賞し、武田展雄教授ほかは学会賞を受賞されました。就職に関しては、先輩諸氏のご支援もあって全員進路が確定しています。

教職員の移動では、近藤恭平教授（昭和39/3. 航空学専修）が退官され名誉教授となりました。また、本年1月1日付けで、町田和雄教授が産業技術総合研究所より転任され、宇宙ロボティクス分野での研究教育に従事されます。

最後になりましたが、冒頭でご紹介した大学の変化

について触れたいと思います。すでに平成13年度より校費の配分方法が文系非実験講座基準となり、従来との差額は大学分として大学独自の判断で配分されるようになりました。組織も、政府研究機関の独立行政法人化に続き、国立大学も法人への移行が検討されています。予算配分方法の変化に見られるように大学独自の裁量権の拡大と、競争原理の導入による国立大学の活性化が基本理念のようです。すでに大学評価機構による研究教育評価が始まり、文部科学省によるトップ30も予定されています。今後さらに大きな混乱は免れないところです。ただ、どのような変化が訪れようとも、教職員学生一体となり航空宇宙工学の発展に寄与する姿勢をとりつづける所存です。それには専攻・学科のかけがえのない資産である航空会の皆様との今後一層の連携が必要です。従来にましてご支援をお願いいたします。

## 近況

### 宇宙飛行士からのメッセージ

宇宙開発事業団 角野直子（平成5/3. 宇宙工学専修）

本航空学科出身の宇宙飛行士は、1997年に船外活動を実施した土井飛行士、来年初頭に国際宇宙ステーションへの物資補給ミッションに搭乗予定の野口飛行士、そして私の3人になります。私は、1993年学士課程修了、1996年修士課程卒業、今は亡き田辺教授の研究室で学びました。ここでは、今まで実施した訓練の様子と近況を少しご紹介させて頂きたいと思います。

#### 日本初の宇宙飛行士訓練

1999年2月に宇宙飛行士候補者として選抜された後、古川、星出両名とともにいった基礎訓練は、国際宇宙ステーション（ISS）長期滞在を目的とした訓練であること、国際合意に基づき日本が独自に実施した訓練であること、という点が特徴だと思います。今までの訓練は、アメリカのスペースシャトル、或いはロシアのソユーズ/ミールに搭乗するためのもので、米口どちらかの国で行うものでした。しかし、国際宇宙ステーションでは、各参加国が「国際パートナー」として独自に宇宙飛行士を育てることが出来るようになったのです。勿論、各国で宇宙飛行士の技量に差が出ては困るので、訓練要求は国際合意で定められます。それに基づき、日本が独自にカリキュラムを組んで実施した、初めての訓練が今回の訓練だったのです。ですから、昨年9月に国際的にも承認され、宇宙飛行士として認定されたときは、訓練チーム全体で格別のうれしさがありました。ちなみに、欧州は独自の訓練を実施していません。従って、日本は、米口に



ロシア水上サバイバル訓練時の著者

継ぐ宇宙飛行士訓練実施国と言えるでしょう。余談ですが、ワールドカップの盛り上がりの余波か、宇宙開発の分野でも韓国との交流が深まり、韓国の宇宙飛行士を日本の施設で訓練する、という可能性も検討されようとしています。

#### 訓練の内容

では、実際にどんな訓練をするのでしょうか。訓練には各段階があります。候補生の期間の「基礎訓練」、認定された後に他国のクルーと共に行う実践的な「アドバンスト訓練」、具体的なミッションにアサインされた後に行う「ミッション固有訓練」、に大きく分けられます。

基礎訓練は全体で約1800時間。内訳は、語学（英語・ロシア語）、基礎工学・宇宙科学研究等、技術教育訓練（ISSやシャトルの概要、ロボットアーム操作等）、環境適応訓練（サバイバル訓練、飛行機操縦、船外活動訓練等）がそれぞれ400時間、そして体力訓練といったところです。日本が組んだカリキュラムですが、





船外活動訓練風景（筑波宇宙センターにて）



ロシア冬期サバイバル訓練風景

全てを日本で実施したわけではなく、飛行機操縦訓練はアメリカで、サバイバル訓練はロシアで、ロボットアーム操作訓練はカナダで、という風に各国の協力の御陰で実現しました。

その中で日本が独自に出した特色は、ISS日本実験棟「きぼう」の訓練を多く取り入れたこと、そして、筑波宇宙センターにある無重量環境試験棟での船外活動訓練を取り入れたことです。船外活動訓練は、飛行機操縦訓練と並び楽しかった訓練の一つです。

#### 印象深い訓練---サバイバル訓練

現在ISSにはクルーが3名滞在中です。そして、ISSに非常事態が発生した際にクルーが緊急に帰還出来る様ソユーズが常駐しています。また、通常のクルー交代の際にも、シャトルかソユーズが使用されます。従って、ISS滞在クルーは、ソユーズに精通していることが求められます。このソユーズは、シャトルと違いカプセル型であり、海や雪原に着地することもあり得ます。その場合、救助隊が駆けつけるまでの3日間は自力で生き延びる術を身につけなさい、というのがサバイバル訓練です。

まずは、厳冬の雪原に着陸した場合を想定しての訓練。ソユーズは3人乗りなので、ロシア人を含む3人でグループを作りました。モスクワ郊外の気温 20度以下になる野外で2泊3日の実地訓練を行い、ソユーズ帰還カプセルからの脱出方法、ライフル射撃、シェルターの作り方、たき火のおこし方、けがや病気の症状と救急キットの使い方、無線・信号筒による救命信号の送り方、凍った湖上や山の中を移動する方法などを学びました。昼間はシェルター作り等で忙しくあつという間に過ぎるのですが、夜がこんなに長いとは思いませんでした。16時には真っ暗になり、後は、たき火を絶やさないように見張り、1時間ごとに無線で救命信号を送るのです。眠るにも寒くて眠れない。片言のロシア語でロシア人と話しながら、夜明けを待っていました。実は、このサバイバル訓練、心理学の医者も同

行し、グループの動きを観察しているのです。ロシアはミールによる長期滞在の経験が豊富です。長期滞在には、精神的な要素、グループの相性などが大きな意味を持つことを経験上知っています。2泊3日の前後にも心理テストで精神状態の変化を見ていました。こうしたロシアの訓練方法に触れるのも面白い経験でした。

そして、海上に着水した場合を想定しての訓練。黒海沿岸の海上にて、ソユーズ帰還カプセルから海面へ脱出する方法、水上での無線・信号筒の使用法、ヘリコプターで救助される方法などを学びました。海上に長くいると体温が奪われるため（厳冬の海に着水するかもしれないのです）、カプセルの中で防寒着に着替え、更に防水着を着てから脱出します。カプセルは狭く、宇宙服から首まで密着した防寒着・防水着に着替えるのは一苦労で、3人が着替えるだけで数時間かかります。しかも実施したのは夏。カプセルの中はサウナ状態で汗だくでした。そして荒れる海。本当は、荒れた海を想定して訓練要員がカプセルを揺らすはずだったのですが、当日は、訓練要員も近寄れないくらいの荒波。暑さと酔いと気力との闘い、冬期サバイバルとはまた別の意味でのいい訓練でした。

#### 近況

基礎訓練を修了した現在は、アドバンスト訓練を行っています。日本を拠点にしながら、米国、ロシア、ヨーロッパの各国をまわり訓練します。実際に宇宙に行くのはISSの組立てが完成する2006年以降。3ヶ月から半年間滞在中で各種実験や機器の操作を行います。それまでは訓練を重ねると同時に、技術業務も行っていきます。具体的には、日本実験棟「きぼう」の開発・試験に携わったり、運用手順の作成に関わったりします。宇宙に行くだけが仕事ではなく、訓練や宇宙飛行を通じて得た経験を次につなげることで、より多くの方が宇宙へ行けるように開発を進めていくこと、それが大きな目標です。

宇宙に行った暁には、いろいろなことを試してみた

いと思います。アマチュア無線で直接皆さんと交信したり、長期間ということを利用して何世代にも渡る植物・動物実験をしたり、ロボットの進化の実験も出来たら面白いですね。学生で研究していた時、研究室レベルでの実験や研究は盛んにされているのに、宇宙での実験機会が少ないこと、実際の宇宙実験データがなかなか入手出来ないことがもどかしかったです。宇宙という場をもっと身近に利用出来るようにしたいものです。航空学科の皆様にも、引き続きご指導頂ければ幸いです。

## 学生会員

F - t e c 屈辱の52m

渡辺啓隆（学部3年 航空宇宙システム学）

昨年の7月28日に開催された鳥人間コンテスト25回大会には、東京大学、早稲田大学、東北大学、東京工業大学などの学生チームを中心に計16チームが参加し、F-tecの「たんせい八號」は人力プロペラ機部門で出場しました。しかし、結果はは52mで墜落という大惨敗に終わってしまいました。

各飛行機は琵琶湖湖岸に設置された高さ10mのプラットフォームからテイクオフし、その飛行距離を競います。「たんせい八號」は当日10番目のフライト順でした。

本番のフライトでは「たんせい八號」はテイクオフ直後機首が下がりました。一瞬は機首上げに成功し定常状態に回復したかに見えましたが、引き起こしは十分ではなく、機首は再び下がり、主翼のねじれを伴って急降下しました。そのまま「たんせい八號」は水面に激突しました。

主な原因は駆動に使っていたSPDペダルであると思われます。SPDペダルとは、ペダルにシューズを金具によって固定するタイプのペダルで、競技用自転車などに用いられています。「たんせい八號」にもこのペダルが使われていました。当日のフライトではテイクオフ直後、シューズがペダルから外れてしまいました。すなわち、パイロットがペダルを漕げず、プロペラが推力を発生しない状態にありました。しかし、重心位置が正しい位置に調整されていれば、プロペラが推力を発生しなくともきれいに滑空するは、主翼取り付け位置などが狂っていた疑いがあります。昨年計7回にわたる試験飛行で機体の調整を試みましたが、最後まで最適なセッティングを見出せず、本番もその状態のまま臨まざるを得ませんでした。昨年の鳥人間コンテストの結果は試験飛行による調整の重要さを示すものだと思います。

現在、今年7月末に行われる予定の第26回鳥人間コ



琵琶湖にダイブする「たんせい八號」(2001/7/28)

ンテストに向けて、新たな機体を製作中です。「たんせい八號」は「たんせい七號」とほぼ同様の設計で、大きな改良はなされませんでした。しかし、「たんせい九號」にあたる機体では、楕円パイプの採用、操舵ワイヤを胴体ビームに内蔵する、などの改良が予定されています。

F-tecの活動は以下のホームページで紹介しています。<http://www.mat.t.u-tokyo.ac.jp/f-tec/> 一度ご覧になっていただければ幸いです。

今後ご指導、ご支援のほど、よろしく願いいたします。

## クラス会報告

### 昭和46年卒クラス会

荒川義博（昭和46/6. 宇宙工学専修）

昭和46年卒のクラス会を学士会館近く神保町すずらん通りに面した「浅野屋」という大衆居酒屋で総会懇親会終了後の午後7時すぎから開いた。集合した同級生は全部で25名にも及んだ。関東地区以外にも多くの同級生が在住していることを考えると、東京近郊の在住者はほとんど出席したと言ってもよいだろう。久しぶりの懐かしい顔もあったが、2、3年前にN会としてではないが総会にあわせて新橋で開いたことがあるた



昭和46年卒クラス会



めか、あるいは居酒屋の3階を貸し切ったようなものであったためかわからないが、幹事役の青村氏と小生が到着する以前から大いに盛り上がっていたようだ。卒業後30年のクラス会というのは同級生一同感覚として理解しがたいことではあったが、年相応に飲食よりも歓談に夢中になり、会は10時近くまでに及んだ。次のクラス会は明年（つまり今年にあたる）どこかの温泉にでも一泊して行いたいという意見が多数を占め、20年ぶりの一泊クラス会開催を約束して幹事留任のまま散会した。

## 昭和56年卒クラス会

青木隆平（昭和56/3. 宇宙工学専修）

昭和56年卒の卒業20年目クラス会は、主幹事の渡辺紀徳君（原動機学専修）の準備のもと、航空会当日学生会館内の一室で開かれました。ここ数年の先輩諸兄の20年目クラス会の出席状況を見ると、昨年21名、一昨年14名、その前16名と、さすがに多忙な年齢だと実感させられる人数で推移してきましたが、我々の仲間はこの逆境にうち勝って28名も集まりました。予定していた2時間のうちの殆どを各自の近況報告と勤め先の宣伝や愚痴に使い切ってしまう、慌しく記念撮影をして解散しました。終わり、ではなくて勿論その後、ゆっくり話す時間を求めて二次会へと繰り出したのは、既に小生は酩酊していて20名までしか数えられませんが、それよりずっと多かった、と思います。神保町近くの店に何とか全員おさまって、夜更けまで話して飲みました。今回都合が付かなかった人も次回は是非ご出席下さい。同期のみんなに、そして航空会に、乾杯！



昭和56年卒クラス会

## 平成3年卒クラス会

川勝康弘（平成3/3. 宇宙工学専修）

食いしん坊の多い平成3年卒のクラス会は、毎年、新宿の餃子屋「大陸」で開かれており、今年も同じ場所で「10周年記念クラス会」が盛大に開催されました。20名程度の仲間が集まり、おいしい餃子に舌鼓を打ちながら、学生時代の思い出、仕事の愚痴、結婚の話題等で大いに盛り上がりました。外見は、学生時代と変わらない者から立派な中年に変身した者まで様々でしたが、騒いでいるうちに皆で若かりし頃の気分に戻り、束の間学生気分を味わいました。仕事面では、卒業後10年を経て、いろいろな苦労を経験しながらも、それぞれ重要な仕事を任されつつあることを確認しました。プライベートでは、奥様のお買い物袋を持参した者、当日プロポーズをした者、次のクラス会までに結婚することを誓った者等があり、それぞれの人生を楽しんでいる様子でした。大量の餃子で食いしん坊達の空腹が満たされ、1年後または10年後の再会を約束して散会となりました。



平成3年卒クラス会

## 平成11年卒クラス会

桃沢 愛（平成11/3. 航空宇宙推進学専修）

平成11年卒業の初めてのクラス会は、誰もが知っている赤門の近くの居酒屋で行われました。修士課程の卒業直後であることと、航空会名簿の改訂の時期にあっていたことでほぼ全員にクラス会の連絡が行き渡り、その中から35人程度が参加してくれました。例年多数いる名古屋組も、連絡を取り合ってほぼ全員が来てくれました。

途中、皆思い思いに席替えをしつつ、学生時代の思い出話や各々の就職先の興味深い話に花を咲かせているうちに、気が付くと3時間以上が経過していました。



平成11年卒クラス会

最後に店の外で写真撮影をした後は、それぞれ昔の研究室を尋ねたり、2件目の居酒屋に行ったりと遅くまで久々の再会の時を楽しみました。

これからの10年、我々は人生において初めての大きな変動期を経験することと思います。次回のクラス会が今から楽しみです。

## 航空会からのお知らせ

### (1) 航空会総会および講演会のお知らせ

#### 記

1. 開催日：平成14年6月22日(土)
2. 場所：神田学士会館本館 (TEL:03-3292-5931)
3. 講演会：
  - 時間 午後3時00分より4時30分まで(含質疑)
  - 講演者 五代富文氏(昭和32/3. 原動機学専修)
  - 題目 宇宙開発あれこれ
4. 総会：午後5時00分より
5. 懇親会：総会終了後、直ちに開催  
会費 5,000円(在学生：1,000円)

ご出欠を同封の返信葉書により5月20日(月)までにご回答下さい。なお、同葉書は名簿の訂正更新にも利用しておりますので、ご出欠、ご氏名、卒業年月、コース名、勤務先および現住所の7桁郵便番号、さらに封筒ラベル最下段に記してある整理番号を必ずご記入

下さい。勤務先、現住所等は、変更のある方のみ該当欄にご記入下さい。海外在住の方で国内連絡先が有る方は、備考欄にご記入頂ければ幸いです。なお、同葉書は総会の席上で回覧いたしますので、ご近況等を通信欄にお書き下さい。

### (2) 会費について

航空会の「会費・通信費」として年額1,000円ずつご納付頂いております。総会ご欠席の方は平成13年度分を同封の振込用紙にてご送金下さるようお願い申し上げます。整理の都合上、振込用紙の通信欄に卒業年月(名簿の索引に記載されています)、コース名をご記入下さい。

口座番号：00150-1-55763

加入者名：航空会

なお、卒業後55年以上経過された会員の方から「会費・通信費」は頂かないことになりました。本年度は昭和20年以前に卒業された方が対象です。一方、若い会員の方々には、進んで会費をご負担頂きたくお願い申し上げます。既にご納付済みの場合には、何卒ご容赦下さるようお願いいたします。

### (3) F-2見学会のお知らせ

1. 日時 平成14年4月19日(金) 13:30-16:00
2. 場所 航空自衛隊・飛行開発実験団(岐阜基地)
3. 内容
  - 1) 開発経緯：別府信宏氏(昭39/3. 航空学専修)
  - 2) 設計概要：神田国一氏(昭37/3. 航空学専修)
  - 3) F-2見学
4. 申し込み方法

往復はがきに、1)氏名、2)卒業年度、3)年齢、4)住所・電話、5)勤務先、を記入の上、F-2見学と明記し下記へお申し込みください。先着30名に限らせていただきます。集合先などは返信はがきにて連絡いたします。

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1  
 東京大学工学部航空宇宙工学科  
 航空会 柄沢研治

### (4) 航空会会員名簿 2001年改訂版のお知らせ

会員名簿2001年改訂版は、B5版約300ページで定価は3,000円です。同封の振込用紙でお申し込み頂けるほか、6月22日の航空会総会会場でも販売致しますので、是非ご購入頂きますようご案内申し上げます。お問い合わせは e-mail にて航空会までお願い致します。

#### (5) クラス会のお知らせ

本年度のNクラス会、卒業2年目のクラス会をお願いしている幹事の方々は以下の通り（敬称略）です。詳細は、追って幹事の方から連絡があると思いますので、総会と併せてご予約下さるようお願い申し上げます。

##### <昭和37年卒クラス会>

志甫 徹

守屋 真

##### <昭和47年卒クラス会>

井上善雄

鈴木和雄

本間正修

##### <昭和57年卒クラス会>

李家賢一

金山功一

小山 浩

##### <平成4年卒クラス会>

寺本 進

##### <平成12年卒クラス会>

岩谷健生

有川善久

#### (6) 航空会懇親ゴルフ大会

去年はゴルフ大会のお知らせを航空会だよりに掲載しそこない航空学科ホームページのみでのお知らせになりご迷惑をおかけしました。それでも湘南カントリークラブに15名の方々が集まり熱戦を繰りひろげた結果初参加の亀山さん（昭和41/3. 航空工学専修）が見事優勝されました。今年も下記の通り開催致します。例年より1組多い6組を予約してありますのでゴルフのお好きな方、そのあとの懇親会のお好きな方、是非多数ご参加ください。

日時：平成14年9月5日（木） 場所：湘南カントリークラブ 会費：約3万円
---

参加ご希望の方は下記幹事までご連絡下さい。  
日根野 穰（昭和32/3. 航空学専修）

青村 明（昭和46/6. 航空工学専修）

#### <編集後記>

航空会だよりの編集や閲覧が総て計算機上でできる時代になりました。写真などをスキャナで取り込んでレイアウトを工夫する時間は現代風の楽しみの一つかもしれません。航空会についてのご意見、ご希望、連絡先の変更等何でも、事務局までTel、Fax、あるいはe-mailにてご連絡下さい。

編集担当 森下悦生（昭和47/4. 航空工学専修）